



ファイナンスについての説明資料

2024年6月3日

Eyes to the all machines

- 「成長の二本柱」の強化と、下支えする取り組みの推進のため、新株予約権による約30億円（希薄化率9.74%）のファイナンスを実行¹

事業の進捗

今回の調達資金の用途

成長の二本柱

A 顧客製品化

- 顧客製品化の順調な積み上がり
- 製品関連売上の伸長

B ソリューション化

- 協業エコシステム構築と政府公共案件へ参画
- 欧州デジタルツイン案件受注・合意の開始

下支え取り組み

C AI・半導体との融合

- 大手半導体との協業体制の構築
- Intelとの顧客製品化

前回未達分²の補完

- 「呼び水」となる製品向けパッケージ強化
- WD社を含む各案件の推進

- 欧州デジタルツイン案件拡大と世界展開
- ロボット領域でのソリューション化の展開

新たな資金用途

- 広義の自動運転領域でのソリューション化の展開
- M&Aなどの事業投資³

- 大手半導体協業向けの最適化開発
- 生成AIとの技術融合による革新技術の開発

¹ 想定調達額は、当初行使価額3,020円で全ての新株予約権が行使された場合の金額。なお、2024年5月15日公表の当期業績予想に変更はなし。

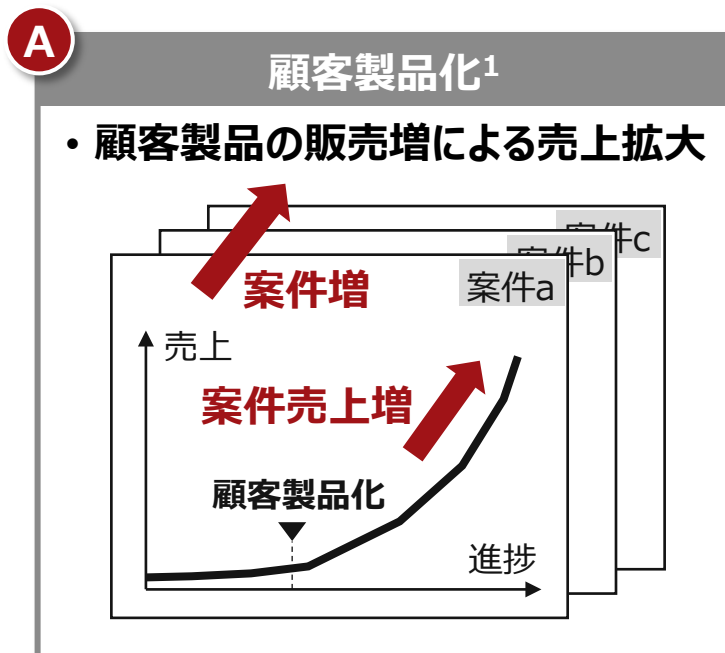
² 行使価額修正条項付第17回新株予約権（第三者割当て）によるファイナンスにおいては、当初想定金額約19億円に比べて約14億円の調達実績となり、約5億円の未達

³ ソリューション化案件の大規模化に向けた当社開発・技術組み込み体制強化等のためのM&Aを含む事業投資

「成長の二本柱」に加えて、下支えする取り組みにも注力

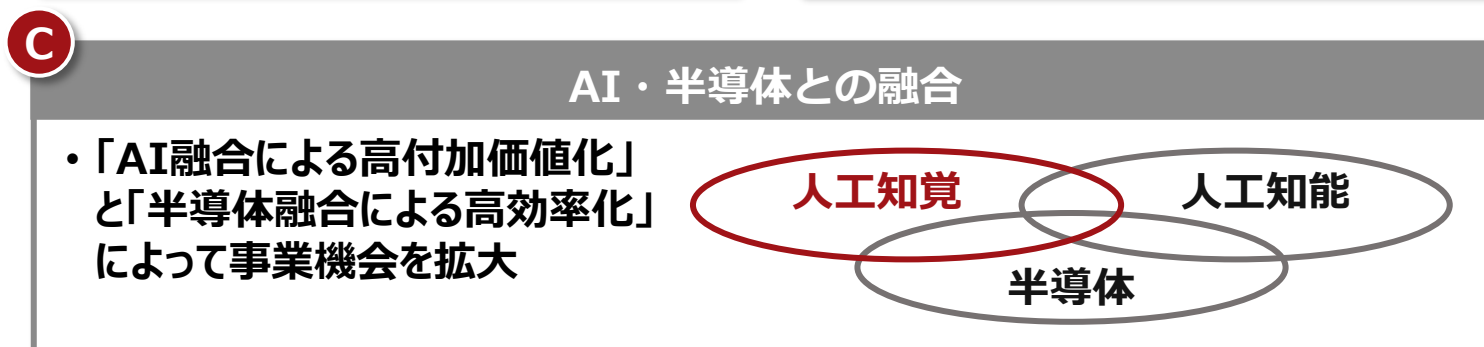
継続

成長の二本柱



新規

下支えする
取り組み



1 当社の直接顧客が当社技術を製品に採用し、その顧客製品のリリースが決定される案件の転換点

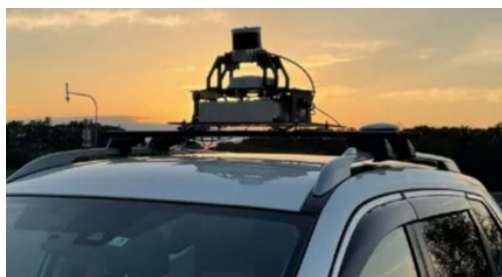
ロボット用製品向けパッケージを投入し、仕込み案件が増加

- 顧客製品化に向けた「呼び水」として、デジタルツイン用に続き、ロボット用²にも製品向けパッケージ¹を導入し、案件が増加

「呼び水」となる 製品向けパッケージの導入

デジタル
ツイン
(マッピング)

- 23/3期3Qに市場投入



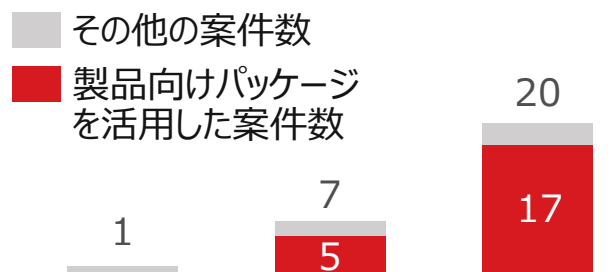
- 24/3期4Qに市場投入



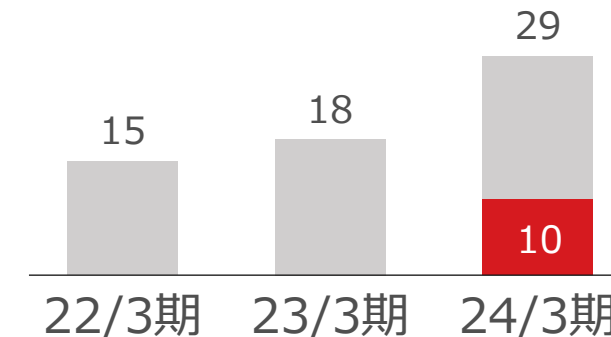
ロボット²

各領域における案件数の増加

- 案件増に大きく寄与した実績



- 今後の案件数増加を見込む



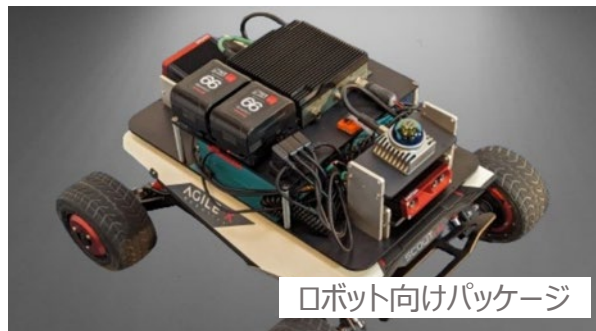
¹ 顧客製品の開発・試験運用の期間を短縮し、直接製品として実用化も可能なパッケージ

² ドローンや自動運転を含む広義のロボティクス

仕込みの開発フェーズにおいても、「案件の質」が向上

- 製品向けパッケージの活用に加えて、領域横断的な知見の蓄積により、開発案件の効率が大幅に改善

製品向けパッケージが実装サンプルとなり、実装支援力が向上



開発支援コスト低減²
(▲24%)

開発リードタイム短縮³
(▲37%)

領域横断的な技術手法による知見¹が蓄積し、効果な支援を実現



1 センサ選択・融合の手法やパラメータチューニングなど、領域横断で応用可能な知見が蓄積し、成功・失敗事例の横展開などが効果的に実現可能となっている

2 案件あたりにかかる支援工数 (23/3期に対する24/3期の比較)

3 案件あたりにかかる開発リードタイム (23/3期に対する24/3期の比較)

結果、顧客製品化が領域を拡大して進捗し、今期は大きく伸長

- 前期は**新規4件**（累積8件）ながらも、**ドローンや自動運転へ領域拡大が進む**
- 今期は**全領域での案件進捗**と、**大幅な新規案件の増加を見込む**

顧客製品化の案件拡大の状況

	23年3月期	24年3月期	25年3月期
デジタルツイン	UCS	Dates Metron	Coming soon
ドローン		Inertial Lab	
		Avestec ²	
		日系ドローン企業	
ロボット ¹	Intel		中国ロボット企業 Coming soon
	Movel AI		米国ロボット企業 Coming soon
	Whale Dynamic ³		
ドローン		Avestec ²	
自動運転		Whale Dynamic ³	

1 ドローンや自動運転を含む広義のロボティクス

2 マッピング機能（点群生成）とロボティクス用途（自律飛行）の双方を実装

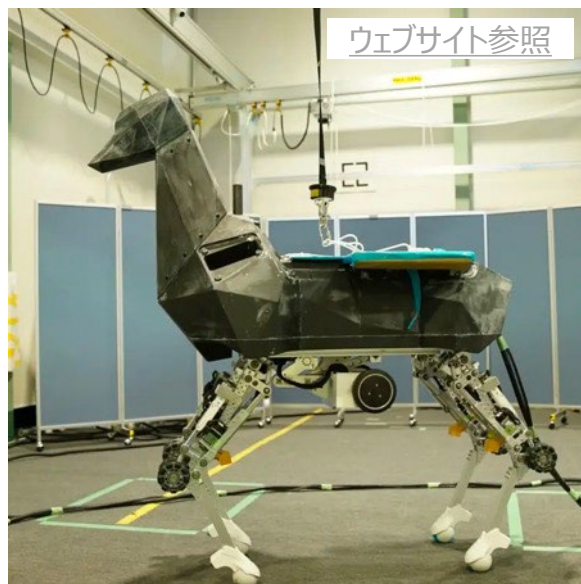
3 24年3月期に自動運转向け用途へ実装を拡大

参考) その他の先進的な取り組み

- よりダイナミックな動きや、未知で複雑な環境にも挑戦し、**先進的かつ未来的なロボット分野への取り組みも拡大**

四足作業ロボット

川崎重工業



月面探索車両

NASA (*参考リリース)



ヒューマノイド

米国ロボット関連企業



前期、デジタルツイン領域で、深層技術をソリューション化

- Kudanの空間認識技術を、設備・インフラ管理DX向けに、最終顧客用のソリューションに構築し、案件規模を拡大

世界各国のDX国策の後押しにより
デジタルツインの需要が拡大

あらゆるアセットのデジタル化からデータベース管理までの統合
ソリューション「DAMS」¹をパートナーと構築²

エネルギー設備管理



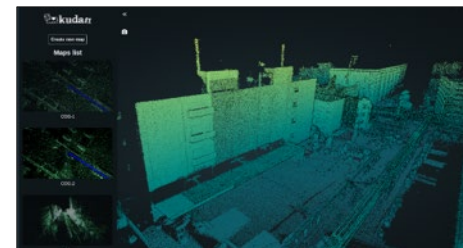
インフラ管理



マッピング機器・スキャン



点群による3Dデータ化



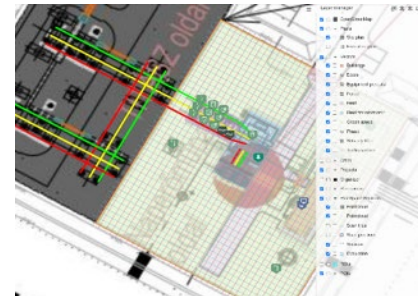
建築測量



街路樹・緑地登記



情報付与・データ管理



期待できるインパクト

- データ収集効率：10~20倍
- データ利用効率：2~5倍
- イノベーションの実現
 - ・ 管理できるアセットの拡大
 - ・ 情報共有による新規事業
 - ・ 作業の分散化、など

¹ アセットとは管理が必要となるあらゆる設備・建造物を意味し、DAMS（デジタル・アセット・マネジメント・ソリューション）は、そのアセットの管理運用をデジタル化することが可能

² システム統合、データ管理、サーベイ、アプリケーション開発、など計10社+と協業体制を構築し、ソリューションを開発・提供

欧州の新エネルギー設備管理向けの案件受注・合意が伸長中

— 社会的・公共的に勢いづく投資トレンドを追い風に、太陽光インフラ管理案件が進捗

欧州における新エネルギー向け設備管理案件伸長への追い風

脱炭素シフトの加速

- 欧州グリーンディール¹等、産業・公共セクターへの脱炭素投資が拡大

脱ロシア産天然ガスの動きが急進

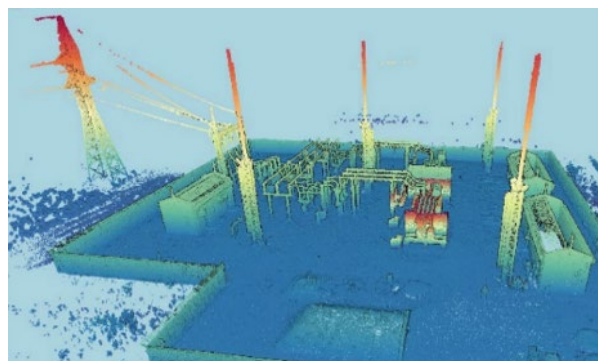
- 安全保障施策が、新規エネルギー設備投資をさらに後押し

Kudanが政府公共案件と連携

- ドイツ交通・デジタルインフラ省と欧州地域でのDX化に向けて連携を開始

ソリューション案件立ち上がり

受注済みの太陽光発電インフラ (送電網・変電所)



案件大型化（ギガW級インフラ）に向けて方針合意も、公共案件の調整による遅延により、前期から今期以降に大型案件受注はずれ込む²

¹ 2050年までに二酸化炭素排出量ゼロを目指し、官民で年40兆円の投資が提示されているEUのロードマップ

² 24年1月30日開示内「合計500メガワットの大規模太陽光発電所及びインフラ（100km超の送電網と約10の大規模変電所を含む）・現時点の合意済み案件のギガワット規模の大規模太陽光発電所及びインフラ（300km超の送電網と約30の大規模変電所を含む）への展開拡大」共に受注・事業開始は未了で、今期以降に遅延。

今期からロボット・自動運転領域でもソリューション化の取り組み

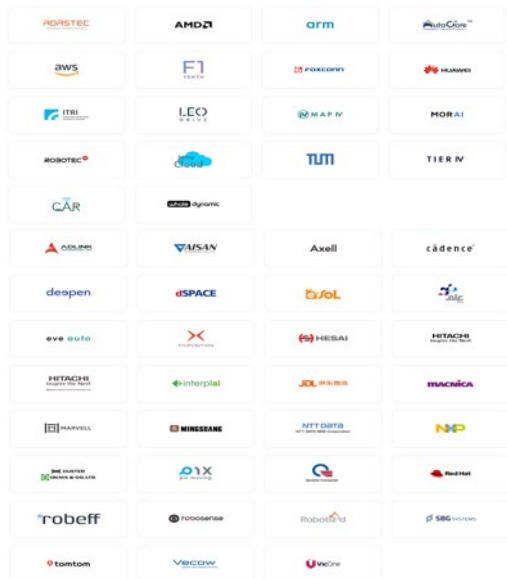
- エコシステム・連携拡大に対して、公共案件多数を見込み、今期からソリューション化の取り組みに注力

自動運转向けエコシステムへの参画¹



THE AUTWARE FOUNDATION

- オートウェア¹に加入
- 85社のパートナーからなるエコシステムに参入し、協業・技術提供を行う



日系自動運転企業との連携の開始



- 公共案件をはじめとして幅広く技術実装を今期から開始予定
- 広義の自動運転（屋外ロボティクス、物流、モビリティなど）のソリューション化を目指す

- 深層技術から最終顧客が利用できる自動運転ソリューションまで一貫して開発
- 最終市場需要の掘り起こしと、技術統合の開発速度を加速

¹ 現在は申請手続き中（合意済み）

加えて半導体と融合し、処理効率を大幅に向上

- 人工知覚・人工知能・半導体が三位一体となる技術基盤をパートナーと目指す

技術が進む方向： アルゴリズムと半導体の融合¹

ソフトウェア
(人工知覚・人工知能)

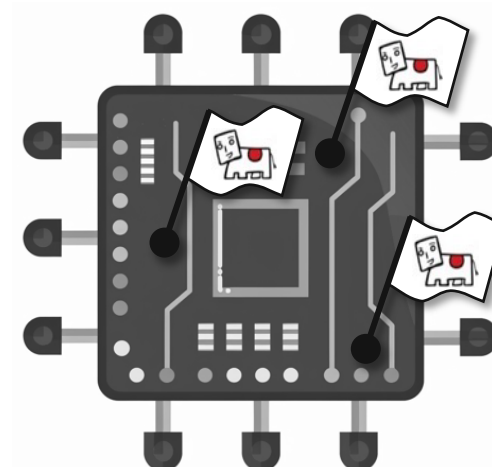


よく使われるプログラム
パターンを回路として
ハードウェア化する



有効な回路を最大
活用してプログラムを
再構築する

ハードウェア
(半導体)



参考：半導体パートナー抜粋

Qualcomm



cādence®



SYNOPSYS®

intel.

人工知覚と人工知能の融合による革新的な価値創出

3D空間情報処理の根本課題を解決し、あらゆる3D・空間DXに影響をもたらす



人工知能 (AI) の進化における課題

教師データ 進化の速度

言語・文章

豊富な教師データで発展し、
技術的に大きく先行

2D画像・動画

3D・空間データ

3Dの教師データは取得が困難、
技術的に大きく遅れをとる



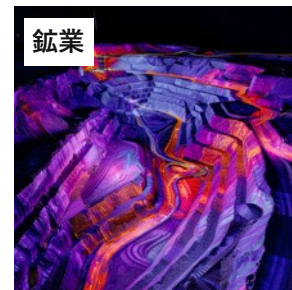
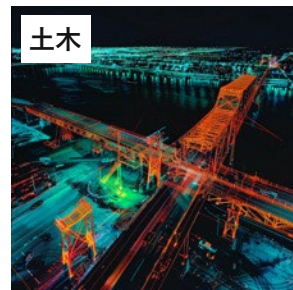
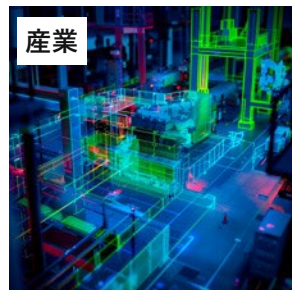
人工知覚 (AP) による解決策

2Dデータから3Dの教師データを生成することで、
3D・空間データのAI処理の課題を抜本解決



セマンティック・デジタルツイン (AIによって意味合いづけされたデジタルツイン) が3D・空間情報に関わる全てのDXソリューションに破壊的な価値をもたらす

大規模AIモデルによる空間デジタルツインの分析、生成AIによるメタバースの生成など



発行概要	発行方法	グロス・キャピタル(株)に対する新株予約権の第三者割当
	想定調達額※1	約30億円
	潜在株式数	1,000,000株
	希薄化率※2	9.74%
	行使期間	3年間
行使価額	当初行使価額	3,020円 発行決議日前取引日の終値
	行使価額の修正	割当先が行う各行使請求日前取引日の終値の94%に修正
	行使価額上限	なし
	行使価額下限	発行決議日前取引日の終値の60%
その他	任意請求	割当日以降、2週間前までの通知により発行価額の100%で新株予約権を取得可能
	取得請求	新株予約権者は発行の1年後以降で株価が下限行使価額を下回った場合、発行会社に対し、発行価額の100%で新株予約権の取得を請求可能※3
	譲渡制限	譲渡制限付
	行使停止条項	当社判断で行使停止可能

※1 当初行使価額で全ての新株予約権が行使された場合の金額

※2 2024年3月31日の総議決権数102,718個（発行済株式総数10,288,867株）に対する割合

※3 発行会社は行使期間末日に発行価額の100%で残存する新株予約権を取得する

- 本資料は、当社の企業情報等の提供のために作成されたものであり、国内外を問わず、当社の発行する株式、新株予約権、新株予約権付社債その他の有価証券への勧誘を構成するものではありません。
- 本資料は、当社の事業および業界動向に加えて、当社による現在の予定、推定、見込みまたは予想に基づいた将来の展望についても言及しています。
- これらの将来の展望に関する表明は、様々なリスクや不確実性がつきまとっています。
- すでに知られたもしくは知られていないリスク、不確実性、その他の要因が、将来の展望に対する表明に含まれる事柄と異なる結果を引き起こさないとも限りません。
- 当社は、将来の展望に対する表明、予想が正しいと約束することはできず、結果は将来の展望と著しく異なることもありえます。
- 本資料における将来の展望に関する表明は、2024年6月3日現在において、利用可能な情報に基づいて、当社によりなされたものであります。